

第3回JA都道府県青年組織 委員長・事務局合同会議資料

日時:平成22年10月26日(火)～10月27日(水)

場所:JAビル 36階大会議室

全国農協青年組織協議会

第3回 J A 都道府県青年組織委員長・事務局合同会議
(作物・課題別専門部会)
次 第

日時：平成22年10月26日(火)

10月27日(水)

場所：J Aビル36階大会議室 他

平成22年10月26日(火)

・ブロック会議<11:00~12:45>

・第3回 J A 都道府県青年組織委員長・事務局合同会議<13:00~16:15>

1. 開 会

2. 綱領唱和

3. 挨拶

4. 協議・報告事項

(1) 第2回委員長・事務局合同会議で出された主な意見と現時点における考え方

(2) 全青協中期活動計画の策定のすすめ方について

(3) 青年部ポリシーブック(仮称)作成による組織活性化と農政運動について

(4) 「中期活動計画策定モデル単組支援」の取り組み状況について

(5) 全国盟友手作り料理コンテストについて

(6) 口蹄疫義援金について

(7) 第4回委員長・事務局合同会議のもち方について

(8) 第57回 J A 全国青年大会について

(9) 青年組織リーダー研修会について

(10) 全国機関の機関会議等の内容報告について

(11) 全国連からの報告事項

(12) その他

・作物・課題別専門部会による全農との意見交換<16:30~17:30>

(水田部会 : 36階大会議室)

(畜酪部会 : 27階第1中会議室)

(青果部会 : 27階第2中会議室)

(都市農業部会 : 27階大会議室)

・懇親会<18:00~19:45>

(委員長・全農 コープビル地下1階)

(事務局 素材屋 大手町店)

平成22年10月27日(水)

・作物・課題別専門部会<9:00~12:00>

1. 全体会(36階大会議室)<9:00~9:30>

2. 専門部会 作物・課題別専門部会<9:40~11:15>

(水田部会 : 36階大会議室)

(畜酪部会 : 27階第1中会議室)

(青果部会 : 27階第2中会議室)

(都市農業部会 : 27階大会議室)

3. 専門部会 全体報告会(36階大会議室)<11:30~12:00>

4. 閉会

以上

第2回委員長・事務局合同会議で出された主な意見と対応方針（案）

平成22年10月

全国農協青年組織協議会

出された意見	現時点における考え方（対応方向等）
<p data-bbox="168 327 660 359">農政運動方針の検討の進め方について</p> <p data-bbox="123 375 380 406">（牛込委員長/東京）</p> <p data-bbox="145 430 1108 798">今年度の場合は全中がまとめた提言集があり、パブリックコメントを求め、それを踏まえてJAグループの政策集を6月に策定している。これは来年度以降もやるのか。また、全青協の農政運動は、その中に組み込んでまとめるのか、別にするのか。今回、東京は提案を受けて都青協会議で意見をまとめ、政策集に意見を反映させることができた。また、私たちの要望を都中央会と一緒にまとめている。都議会に対しても国に対しても意見を整理し、今年は6月に要請に行った。</p> <p data-bbox="145 821 1108 965">全青協として独自に出したいということであれば、JAに対しても要望はたくさんある。それを反映させることができれば、全青協独自のものにできると思う。</p> <p data-bbox="112 1045 392 1077">（久保田委員長/福岡）</p> <p data-bbox="145 1101 1108 1189">取り組み方針の中で、選挙協力について書かれているが、今後の選挙活動についてどのように考えているのか。</p> <p data-bbox="145 1212 1108 1412">福岡でも2月に独自に中央会とともに要請を行っている。まず、私たちの声を反映できるような組織作りをしなければならないのではないか。全中ができないから青年部でやる、というよりは、JAと連携してやる方がいいのではないか。</p>	<p data-bbox="1131 422 2128 694">JAグループの政策提言にも現場の意見は反映されているはずで、青年部の意見とも極端な相違はないだろう。ただ、青年部の農政運動は、盟友からの積み上げという点でJAグループの政策提言とは基本的には別のものである。これは青年部で意見をまとめた上で、地元のJA、中央会と各段階でJAグループとも意志疎通を図っていくことを考えている。青年部の農政運動は毎年実施していきたい。</p> <p data-bbox="1131 805 2128 933">青年部独自で検討し作り上げるため、JAに対しての要望も政策要望の中に入ることになる。また、この活動は盟友間の情報共有をするための取り組みでもある。地域の課題を拾い出すきっかけにもしてほしい。</p> <p data-bbox="1131 1101 2128 1372">選挙協力を行うには、自分たちの要請をしっかりと実現してくれる人を基準に選定しなければならない。落選した場合、リスクがあるというのは事実であり、そのリスクを背負うためには自分たちの考えを表明しそれを明確に支援してもらうことで自分たちも選挙を含めた協力をする。与党が決まってからついていくのではなく、自分たちで積み上げたものを投げかけた上で応援する候補者を選ぶことになるため、選挙から逃げるといったことではない。</p> <p data-bbox="1131 1388 2128 1460">今年度のJAグループの政策提言は、全中としてはじめての取り組みであった。毎年同様になるのかはまだ検討段階である。JAグループの政策提言</p>

出された意見	現時点における考え方（対応方向等）
<p data-bbox="120 343 349 376">（武内顧問/広島）</p> <p data-bbox="147 397 1106 652">本格実施後のスケジュール感についてはどのように考えているのか。この取り組みは難しいと思っている委員長も多いのではないか。そのような中で来年度から本格実施というのは早急なのではないか。中身が伴わないということのないよう、活用する場合は慎重にしてほしい。取り組み自体はいいことだと思う。</p> <p data-bbox="147 730 1106 876">この取り組みを組織内の情報収集と考えてもいいのではないか。できたものを農政に要望するためには、取りまとめ方によっては内容が偏ってしまうのではという懸念がある。</p>	<p data-bbox="1131 172 2128 304">集の原案は全中が作成しており、農業者の意見が完全に踏まえられている訳ではない。また、全中は全国一本の政策であるが、青年部は、それぞれの単組・都道府県レベルで自分たちの意見を持つ、という点で異なる。</p> <p data-bbox="1131 368 2128 687">本格実施後のスケジュールは今回の会議に案を出しているが、同様の取り組みをすでにやっている県域もある。来年度からの本格実施については、まず始めるということが重要であると考えており、実際に何県かでデモ的にグループディスカッション等をさせていただいたが、反応はよくいろいろな意見交換がされているため、全国で実施可能と考えている。来年度から各単組で実施していくために、今回の委員長会議の情報を地域に広げていただきたい。</p> <p data-bbox="1131 707 2128 884">今回の取り組みは、単なる情報収集というようには考えていない。しっかり協議した結果を外には発信していきたい。もちろん、組織内としても常に課題を意識して青年部活動するということにつながると思っている。やり方はこれからご意見をいただきながらさらに検討したい。</p>

ＪＡ全青協 次期中期活動計画＜H23～25年度＞について（案）

平成22年10月26日
全国農協青年組織協議会

1. 趣旨

ＪＡ全青協は、平成16年5月に創立50周年を迎え、これを契機に将来を展望した新たなＪＡ青年組織の方向を示すため、17年3月に新たな「綱領」を策定し、この綱領に沿って「ＪＡ全青協中期活動計画」を策定した。

平成20年には、現在の中期活動計画となる「ＪＡ全青協第2次中期活動計画」を策定し、「(1) 組織基盤の強化」「(2) 食農教育の強化」「(3) ＪＡ運営への参画」「(4) 情報ネットワークの拡充」の実践項目に沿って運動を行っているところである。

現在の中期活動計画は平成23年3月までを実践期間としていることから、ＪＡ全青協では次期中期活動計画を策定し、組織活性化や農政課題などについて各組織段階における計画の実践を通じてＪＡ青年組織の抱える今日的な課題の解決をめざす。

2. 実践期間と評価

平成23年4月～26年3月

* 年度当初に各都道府県組織において実践事項に関する進捗状況のチェックを行なうとともに、状況に応じて具体的な阻害要因を検証する。

ただし、3年目は実践結果の評価と次期計画に向けた検討を行なう。

3. 検討方法と検討スケジュール

(1) 検討方法

現在、ＪＡ全青協では単組の中期活動計画策定の支援を「中期活動計画策定ツール」を使用して行っている。これは、既存活動の整理を行い、それに基づいて「基本方針の設定」、「活動プランの設計」のステップを踏みながら中期活動計画を策定するツールである。

全青協の次期中期活動計画についてもこのツールの考え方に基づいて策定を行うこととし、第2次中期活動計画期間中の活動について9月理事会において整理を行い、10月理事会で基本方針（案）を作成している。

(2) 検討スケジュール

9月理事会	現在の活動の課題を検討
10月理事会	基本方針(案)の検討
10月委員長会議	基本方針(案)の検討、決定
11月理事会	活動プラン(案)の検討
12月頃	活動プラン(案)に対する意見募集
12月理事会	活動プラン(案)の検討
1月理事会	活動プランの検討・中期活動計画(案)の検討
2月理事会	中期活動計画(案)の検討
2月委員長会議	中期活動計画(案)の検討
3月委員長会議	中期活動計画の決定

基本方針（案）

組織の現状を踏まえて中期計画における基本方針を設定し、その達成に向けて道程図を作成する。この作業によって、中期計画の背骨にあたる部分が完成する。

1. 次世代農政運動の確立
目標 盟友ひとりひとりの積み上げによる、農政運動を確立する。
具体的に目指すこと 現場視点からの情報発信による、政策提言の実施
活動の柱立て ポリシーブックの作成定着化と、効果的な要請活動の実施
2. 組織活性化と経営力向上にむけた、JAや外部団体等との連携強化
目標 組織活動の活性化による組織強化とともに、事業運営にも積極的なかかわりを持ち意義ある青年部活動を目指す。
具体的に目指すこと JAの営農事業や外部との連携による経営安定化と向上を目指す活動の実施 各単組において中期計画の策定を行うなど、組織の活性化に向けた具体的なプランの計画
活動の柱立て JAとの連携強化をはかり、事業運営に積極的に参画する。 単組・県域における組織活性化のための中期計画策定などを支援する。
3. 個々のスキルアップを目指した人材育成
目標 魅力あるリーダー層の育成と中堅、若手層の活性化を目指す。
具体的に目指すこと 多様化するニーズに対応したスキルアッププランの実施
活動の柱立て 魅力ある若手農業者を育成するための、活動内容の見直し・実践を行う。

活動プラン(検討素案)

第1項目:次世代農政運動の確立

目 標: 盟友ひとりひとりの意見の積み上げによる農政運動を確立する。

目標の達成に向けて行う活動	道程						目標到達評価
	第1年度	進捗評価	第2年度	進捗評価	第3年度	進捗評価	
単組版・都道府県版ポリシーブックの作成支援							
委員長・事務局拡大合同会議による要請活動 青年部農政活動のPR(HP活用)							
全国版ポリシーブックの作成							

第2項目:組織活性化と経営力向上にむけた、JA や外部団体等との連携強化

目 標: 組織活動の活性化による組織強化とともに、事業運営にも積極的なかかわりを持ち意義ある青年部活動を目指す。

目標の達成に向けて行う活動	道程						目標到達評価
	第1年度	進捗評価	第2年度	進捗評価	第3年度	進捗評価	
ポリシーブック作成過程における JA 等との連携・情報交換 JA への要請活動							
単組・県域における組織活性化のための中期計画策定などの支援							
農商工連携の推進(外部団体との連携)							
TAC との連携							
JA と連携した組織強化に向けた青年部活動の見直し支援							

第3項目:個々のスキルアップを目指した人材育成

目 標:魅力あるリーダー層の育成と中堅、若手層の活性化を目指す。

目標の達成に向けて行う活動	道程						目標到達評価
	第1年度	進捗評価	第2年度	進捗評価	第3年度	進捗評価	
啓発活動 青年の主張 組織活動実績発表 一分間スピーチ 看板コンクール							
組織リーダー養成にかかる研修 JA 経営担い手セミナー リーダー研修会							
個人スキルアップ研修 IT・先進的な農業経営手法やマーケティングなど経営力向上に資する研修内容							
会議等の運営方法の改善 ペーパーレス化の検討 各会議等の検討 青年大会 総会 委員長事務局合同会議 専門部会 理事会							

青年部ポリシーブック(仮称)作成による
組織活性化と農政運動について(検討素案)

平成 22 年 10 月
J A 全青協

1. 各ポリシーブックの位置づけについて

現在、全青協の専門部会で作成している H22 年度版ポリシーブックについては、来年度より作成するポリシーブックのモデルとなるものであるが、H23 年度以降に作成するポリシーブックは以下の通りとなる。

(1) 単組版ポリシーブック

盟友からの意見を積み上げて作成する本活動の基礎となるポリシーブックであり、このポリシーブック作成のための議論を通じて盟友の問題意識を高める役割を担う。

また、J A への要請や、地元行政への要請などに使用し、地域の実情に最も即したポリシーブックとなる。

(2) 都道府県版ポリシーブック

単組の意見を集約し都道府県としての意見をまとめたポリシーブックとなる。委員長・事務局拡大合同会議等において、各都道府県選出の国会議員への要請や、都道府県へのなどに使用するポリシーブックとなる。

(3) 全国版ポリシーブック

単組・各都道府県のポリシーブックのプロモーションの役割を行う。本取り組みにおける青年部としての一連の活動を P R する内容となる。

2. 本格実施後のスケジュール

2~3月	実施に当たっての準備、事前周知
4月	単組版ポリシーブック作成に向けた議論開始(課題抽出、解決策検討)
5月	単組版ポリシーブック原案の作成 実施状況の確認1(全青協総会)
6月	単組版ポリシーブックの組織討議
7月	単組版ポリシーブックの完成 実施状況の確認2(全青協委員長・事務局合同会議)

8月	単組版ポリシーブックから、都道府県版ポリシーブック原案の作成
9月	都道府県版ポリシーブックの組織討議
10月	都道府県版ポリシーブックの完成
11月	<p>委員長・事務局拡大合同会議による要請活動 (委員長・事務局のほか、副委員長などを含めた各県5名程度を想定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・250名規模での会議と、都道府県ごとに地元選出議員への一斉請願活動を行う。 ・都道府県版ポリシーブックと単組版ポリシーブックを使用する。 (全国版は前年度のポリシーブックを使用) ・広報活動(記者会見等の実施) <p>要請活動月間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長事務局拡大合同会議による要請活動に先駆けてJAへの要請活動を行う。 ・委員長事務局拡大合同会議後に、都道府県、市町村など地元での要請活動を行う。 <p>都道府県版ポリシーブックから、全国版ポリシーブック原案の作成</p>
12~1月	都道府県版ポリシーブックの組織討議 完成
2月	<p>青年大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月の委員長事務局拡大合同会議の成果の確認

3. 各都道府県、ブロックでの説明、グループワークのデモ実施の状況 別紙の通り

平成22年度「青年部ポリシーブック作成による組織活性化と農政運動について」説明等の状況

協議会名	役職	名前	内容
全 国			5/26 第1回JA都道府県青年組織委員長・事務局合同会議(専門部会による課題洗い出し実施) 8/5 第2回JA都道府県青年組織委員長・事務局合同会議(専門部会による課題解決策の検討実施) 10/27 第3回JA都道府県青年組織委員長・事務局合同会議(専門部会によるポリシーブックの内容検討)
北海道・東北ブロック			7/30ブロック委員長会議(概要説明・様式1デモ実施) <大西会長>
北海道農協青年部協議会	会長	牧 清 隆	7/12-13 上川地区(概要説明・課題洗い出し・課題解決策の検討実施) <大西会長ほか> 8/23-24 十勝根室地区(概要説明・課題洗い出し・課題解決策の検討実施) <大西会長ほか> 12/13-15 上川十勝根室地区(ポリシーブック(案)に対する組織討議(予定) <大西会長ほか>
青森県農協青年部協議会	委員長	上野 慎 吾	
岩手県農協青年組織協議会	会長	石倉 一 伸	
宮城県農協青年連盟	委員長	黒須 和 幸	
秋田県農業協同組合青年部協議会	委員長	小林 正 明	
山形県農業協同組合青年組織協議会	会長	福原 太 一	
福島県農業協同組合青年連盟	委員長	遠藤 友 彦	
関東甲信越ブロック			10/14 ブロック会議(概要説明) <田尻理事>
茨城県農業協同組合青年連盟	委員長	田沼 貴 久	
栃木県農協青年部連盟	委員長	篠原 一 雄	
群馬県農協青年部協議会	委員長	天笠 淳 家	
埼玉県農協青年部協議会	委員長	大熊 一 夫	
千葉県農協青年部協議会	委員長	山田 貴 弘	
JA東京青壮年組織協議会	委員長	牛込 聖 英	
神奈川農協青壮年部協議会	委員長	横山 篤 正	
長野県農業協同組合青年部協議会	会長	田尻 裕 之	9/8 概要説明 <田尻理事> 11/15 デモ実施(予定) <田尻理事>
新潟県農協青年連盟	委員長	新保 裕 司	
東海北陸ブロック			6/24ブロック研修会(概要説明) <鶴留>
JA富山県青壮年組織協議会	会長	大開 守 守	
石川県農協青壮年部協議会	委員長	黒沢 与 典	
福井県農協青壮年部協議会	会長	飛田 俊 朗	
岐阜県農協青年部連絡協議会	委員長	森本 茂 樹	
静岡県農業協同組合青壮年連盟	委員長	長谷川 政 二	7/6研修会(概要説明) <鶴留>
愛知県農協青年組織協議会	委員長	尾関 幸 二	10/6研修会(概要説明・課題洗い出し・課題解決策の検討デモ実施) <鶴留>
JA三重青年部	会長	長町 尚 格	
近畿ブロック			8/19ブロック委員長会議(概要説明・課題洗い出しデモ実施) <大西会長・鶴留他>
滋賀県農協青壮年部協議会	委員長	田井中 与 寛	
京都府農協青壮年組織協議会	委員長	小川 忠 忠	
大阪府農協青壮年組織協議会	委員長	廣阪 好 男	
兵庫県農協青壮年部協議会	委員長	松井 義 輝	
JAならけん青壮年部	部長	松村 容 嘉	
和歌山県農協青年部協議会	会長	竹本 佳 充	
中国四国ブロック			
鳥取県農協青壮年連盟	委員長	高塚 光 春	7/24研修会(概要説明) <大西会長>
島根県農協青年組織協議会	会長	勝部 喜 政	
JA岡山県青壮年部協議会	会長	植田 輝 義	8/20県大会(概要説明・課題洗い出しデモ実施) <大西会長>
広島県農業協同組合青壮年連盟	委員長	大谷 治 則	
山口県農協青壮年組織協議会	委員長	木村 友 則	9/15山口県農協青壮年組織協議会研修会(概要説明・課題洗い出しデモ実施) <大西会長>
徳島県農協青壮年組織協議会	会長	佐野 守 守	
香川県農業協同組合青壮年部	委員長	山田 泰 三	
愛媛県青壮年連盟	委員長	西岡 洋 司	
高知県農協青壮年連盟	委員長	橋本 拓 巳	
九州沖縄ブロック			
福岡県農協青年部協議会	委員長	久保田 誠 二	
佐賀県農協青年部協議会	委員長	牟田 天 平	8/12(概要説明・課題洗い出しデモ実施) <鶴留>
長崎県農協青年部協議会	委員長	山下 秀 俊	
熊本県農協青壮年部協議会	委員長	西富 大 二 郎	
大分県農協青年組織協議会	委員長	横原 邦 夫	
宮崎県農協青年組織協議会	委員長	角井 智 仁	
鹿児島県農協青壮年組織協議会	委員長	前川 信 男	
JAおきなわ青壮年部	委員長	島袋 輝 雄	

「中期活動計画策定モデル単組」支援の実施単組について

平成 22 年 10 月

J A 全青協

1．支援単組の追加について

岐阜県 JA 東美濃青年部

2．支援のすすめ方について

全 3 回の支援を基本とする

概要の説明

課題の洗い出し

計画の策定

3．取り組みスケジュールについて

(1) 前期取り組み単組のスケジュールについて

・兵庫県 JA 兵庫六甲農業青年会議 (8 月 18 日 : 概要の説明実施済み)

・岐阜県 JA 東美濃青年部 (10 月 21 日 : 概要の説明実施済み)

・宮城県 JA あさひな青年部 (11 ~ 12 月 日曜午後 : 概要の説明実施予定)

・愛知県 愛知西農協青年部 (11 月 15 日 : 概要の説明実施予定)

(2) 後期取り組み単組について (2 月以降を予定)

・山形県 さがえ西村山農業協同組合青年部

・富山県 JA うおづ青壮年部

・富山県 JA みな穂青壮年部

以上

JA全青協『手作り料理コンテスト2010』について

平成22年10月26日
全国農協青年組織協議会

1. 応募結果と書類審査結果について

応募チームは全10チームで本大会出場組織は次のとおり。

北海道・東北ブロック：JA会津いいで

関東・甲信越ブロック：JA横浜

東海・北陸ブロック：JA遠州中央

近畿ブロック：JA丹波ささやま

中国・四国ブロック：JA岡山

九州ブロック：JAさが

2. 審査について

(1) 審査員体制は3名体制とし、構成は以下のとおりとする。

- ・ 帽田順子氏（昨年度審査委員、管理栄養士）
- ・ 家の光の関係者（現在選定依頼中）
- ・ 農林中金総合研究所 野村氏（昨年審査委員長）

(2) 一般審査員について

- ・ 一般来場者には、作品写真・ストーリー等が記載されたパネルと出場者の調理過程を見て審査をしてもらう（笑味ちゃんシールをパネルに貼ってもらう形式）
- ・ コンテスト開始時間である15時から先着100名に笑味ちゃんシールを来場者プレゼントの整理券も兼ねて配布し、審査に参加すれば来場者特典のお米がもらえることとする。
- ・ 一般来場者の審査時間は、より会場に留まってもらうため、16:00～17:15とする。

(3) 配点について

- ・ 審査員は各チームの作品について、ストーリー性、使用食材、料理の完成度、青年部オリジナリティー、味、見た目のよさの6項目について各5点満点で評価する。
- ・ 一般審査員からの得票数が最も多かったチームから順に10点、8点、6点、4点、2点、1点を加算する。
- ・ 審査員による総合得点（90点満点）に一般審査員による得点（最高10点）を加算し、最も得点の高かったチームを最優秀賞とする。

3. 最優秀賞作品の商品化について

- ・最優秀賞の作品は、JA ビル4階「農業・農村ギャラリー旬」にて期間限定・数量限定で販売する（12月予定。1日30食・3日間程度）。

4. ファーマーズマーケットの実施について

- ・ごはんミュージアム前地上広場にて、出場チーム（支部、単組、県域）によるファーマーズマーケットを開催。時間は開会式後15:15～18:00とする。
- ・現在、出場チームに出展の可否について確認中。

5. 一般来場者の呼び込みについて

チラシの配布

- ・消費者大会会場、ごはんミュージアム、JA ビル農業・農村ギャラリーにチラシを設置する。
- ・当日会場への呼び込みのため、会場付近でチラシ配りを実施する。

プレスリリース

来場者特典

- ・審査に参加してくれた来場者に新米をプレゼントする。

6. 記録について

- ・本年度も映像を記録し、ユーチューブにアップする。

7. 当日の流れについて（予定）

11:00 出場者の会場下見・説明

14:30 受付

15:00 開会式、主催者挨拶（大西会長挨拶）、審査委員長挨拶、決意表明

15:30 調理開始（調理終了チームから審査アピール）

17:00 審査会、一般試食

17:20 表彰式、審査講評

17:50 閉会（閉会の主催者挨拶はなし）記念撮影

18:00 会場撤収、片づけ

以上

口蹄疫対策に向けたＪＡ全青協の対応について

平成２２年５月２５日
全国農協青年組織協議会

１．趣旨

４月２０日に宮崎県において口蹄疫疑似患畜の確認がされてから、現在まで宮崎県内で１９３例が確認されており、殺処分対象となる牛・豚の頭数は約１４万４千頭に達し、生産現場は非常事態に直面している。

また、いまだ沈静化していない危機的な状況であり、患畜が確認された農家やその周辺地域の農家の経済的・精神的負担は計り知れないところである。

このような状況を踏まえ、一刻も早い口蹄疫終結と生産農家の経営回復に向け、ＪＡ青年組織としてもＪＡグループと連携し、支援活動に取り組むこととする。

２．具体策

（１）口蹄疫対策募金活動の実施

ＪＡグループが実施している募金活動（１口千円以上、６月末迄）にＪＡ青年組織として各ＪＡ都道府県中央会と連携して取り組む。

また、畜産農家における対応の長期化が懸念されることから、支援活動を更に強化し、単位組織・盟友にまで徹底するため、青年組織独自に取り組むこととする。

なお、ＪＡ全青協より見舞金として、全青協予算より十万円、および２１年度全青協理事の役員（会長・副会長・理事・参与）より十万円、合計二十万円を青年部実施の募金に活用する。

募金額は、ＪＡ青年組織独自に７月末に全青協で集約し、一括して送金するので、都道府県単位で取りまとめるうえ、下記の全青協口座へ送金する。

なお、県段階で既にＪＡグループの募金活動を展開している場合は、当該県の判断に委ねる。

振込口座：農林中央金庫 本店 普通預金 NO. 4003760
「全国農協青年組織協議会」

（２）「宮崎の畜産を守る」署名活動の実施

ＪＡ宮崎中央会は実施主体となって、「畜産農家の生活、農業経営の再建について国の全面的支援」について、内閣総理大臣および農林水産大臣に要請するための署名活動を上記の募金活動と合わせて取り組む。

ただし、報告期限を６月末していることから、ＪＡ中央会の実施する署名活動と連携して行うことを基本とする。

（３）農林水産省への要請

別紙に基づき、防疫の徹底・感染経路の解明と防疫措置への万全の支援、生産農家の当面の営農生活支援と再建に向けた万全の財源の確保、風評被害の発生防止対策を柱とする「口蹄防疫対策等にかかる要請」を農林水産省に対して実施する。

(4) 第 1 回委員長会議における各県委員長・会長によるメッセージ作成

5 月 2 5 日開催の第 1 回 J A 青年組織委員長・事務局合同会議において、各県委員長・会長より宮崎県内の青年部盟友、畜産農家・酪農家への支援メッセージを寄せ書きにして送付する。

(5) その他

状況を勘案し必要に応じて、全青協理事会等で対応を協議する。

以 上

口蹄疫対策に向けた募金活動の取り組みについて（報告）

平成 22 年 10 月 26 日
全国農協青年組織協議会

1．青年組織独自の口蹄疫対策募金活動について

J A 青年組織では、宮崎県において口蹄疫対策として、J A グループが実施している募金活動に各 J A 都道府県中央会と連携して取り組んだほか、支援活動を更に強化し、単位組織・盟友にまで徹底するため、青年組織独自に行った募金の集約を JA 全青協で行った。

また、9 月 2 日には、J A 青年組織と同じく一次産業従事者の青年組織である全国漁青連からも募金をお預かりした。

青年組織独自の口蹄疫対策募金活動結果（全青協口座振り込み分）

青年組織独自活動合計	6,624,414
都道府県域活動	(6,443,967)
第 1 回合同会議	(100,447)
J A 全青協役員	(80,000)
全国漁青連からの募金	1,000,000
総計	7,624,414

2．青年組織独自の口蹄疫対策募金の取り扱いについて

10 月 29 日（金）に開催される J A 宮崎県青年大会に会長・副会長が出席し、J A 青年組織を代表して口蹄疫対策募金を届けることとする

以上。

第4回委員長・事務局合同会議等のもち方について（案）

平成22年10月26日
全国農協青年組織協議会

（1）日 時

平成23年2月14日（月）

（2）場 所

J Aビル 36階大会議室等

（3）スケジュール（案）

2月13日（日）

13：00～17：00 全青協理事会

2月14日（月）

9：00～10：30 全青協理事会

11：00～12：45 ブロック会議

13：00～17：00 委員長・事務局合同会議
協議事項（案）

- ・第57回J A全国青年大会について
- ・全青協次期活動計画の策定について
- ・青年部ポリシーブック作成による組織活性化と農政運動について
- ・その他

2月15日～16日

第57回J A全国青年大会

以 上

第57回JA全国青年大会日程（案）

会場：日比谷公会堂

2月15日（火）

13:00	開会
13:00～13:40	主催者挨拶・来賓あいさつ・友好団体メッセージ
13:40～13:50	平成22年度JA全青協活動報告
13:50～13:55	23年度正副会長立候補者の決意表明
13:57～14:00	審査委員の紹介
14:00～15:05	JA青年の主張全国大会 <休憩>
15:20～16:55	JA青年組織活動実績発表全国大会

2月16日（水）

9:20～10:15	1県1名1分間スピーチ
10:15～10:40	JA青年の歌「君と」全国コンクール <休憩>
10:55～11:39	審査講評・発表、表彰式
11:39～11:50	大会宣言・「君と」大合唱・閉会挨拶

終了後のプログラム

最大延長時の終了時刻を13:30としてプログラムを検討する

以上

第57回JA全国青年大会の募集事項・留意事項等について(案)

全国農協青年組織協議会

JA全青協は見出しの大会を第57回通常総会(5月25日開催)にて決議した開催要領(添付資料参照)に基づいて開催する。大会では、各県盟友の生の声をアピールし、青年部らしさを発揮する場として、1分間スピーチを実施する。また、全国大会に対する多くの盟友の関心を掘り起こすため、大会スローガンの公募を行うこととする。

1. 1分間スピーチについて

全国青年大会に参加した盟友に対し、日頃の現場での想いを訴え、盟友同士の交流に結びつく契機とすることを趣旨とする。

出場者は各県より1名ずつとし、平成23年2月4日(金)迄に所属・氏名を報告する。なお、選出にあたっては多くの盟友に出場機会を設けることを考慮する。

1分間スピーチの発表者は、1日目大会終了後ステージ前に集合し、当日の発表順・集合場所・ルール等の打合せを行う。

当日の飛び入り参加は原則認めない。

発表内容は自由とする。ただし、来賓・出席者にも配慮し、特定の対象を誹謗中傷する内容は慎むこと。

スピーチの時間は1分間とし、チャイムが鳴ったら速やかに退場すること。

発表内容について審査は行わない。

2. 大会スローガンの公募について

スローガンの公募を通じて、全国大会に対する多くの盟友の関心を掘り起こすとともに、盟友による大会への参加機会を創出し、青年部自身の手による大会運営を実践することを趣旨とする。

公募にあたっては、本大会に向けたオリジナルの作品とし、既に青年大会等で使用された作品や既存のキャッチコピー等は受け付けない。

応募資格は青年部盟友であることとし、本協議会事務局宛に平成22年12月13日(月)迄に、様式1により応募する。また、メインスローガンは一人3作品まで受け付けることとし、各スローガンの趣旨を合わせて記載する。なお、字数は特に制限しないが、簡潔で分かりやすい作品を心掛けること。

応募されたスローガンの審査は、JA全青協理事会によって本年12月中に行い、メインスローガンに基づいて、サブスローガンおよび大会宣言等を理事会において協議する。メインスローガン採用作品に選ばれた盟友は、大会資料の掲載によって紹介する他、JA全青協より粗品を進呈する。

3. 運営上の留意事項

- (1) 大会期間中は、参加盟友が全日程の参加となるよう、県委員長・ブロック長が責任をもって対応にあたることとする。
- (2) 喫煙ルールについては会場側と協議して別途提案するが、昨年度についても会場の内外に吸い殻が散乱している状況であり、マナーの遵守に関しては参加県委員長・ブロック長が責任をもって対応にあたることとする。
- (3) 携帯電話等のマナーに関して、昨年に引き続き告知等のアナウンスやスクリーンでの警告を行うと共に、参加者の意識向上を徹底する。
- (4) 進行を円滑にするため、司会はプロの司会者に依頼する。
ただし、全青協理事は大会運営における全般的な業務を担うこととし、外部スタッフに委託する費用の削減に努める。よって、全青協理事の選出県は一連の発表大会の審査を委員長以外で対応する。
- (5) 青年の主張および実績発表大会の発表者は、リハーサル時刻に遅れないように会場入りすること。
- (6) 最優秀賞受賞者（看板コンクール・「君と」全国コンクール含む）は表彰式において受賞のコメントを発表する機会を設ける（表彰式の出席に関して本会から交通費等は支給しない）。
- (7) アンケートは大会終了時に県事務局が県下参加者分を責任持って回収する。後日JA全青協に集計結果を報告すること。なお、第5回委員長・事務局合同会議において、都道府県毎の提出状況を公表する。
- (8) 青年の主張・組織活動実績発表において時間の計測が可能となる機器等（時計・ストップウォッチ・タイマー等）の使用は認めない。

4. その他

- (1) 近年参加のない県については、ブロック内で参加を呼びかけ、全都道府県からの出席を促す。
- (2) 消費者への参加を呼びかけるとともに、友好団体からの祝電を依頼する。
- (3) 参加費・負担金の振り込みにあたっては、各単組分を県組織で取りまとめのうえ全青協口座へ送金する。
- (5) 大会の開催に先立ち、「青年の主張大会」「活動実績発表大会」「『君と』全国コンクール」「看板コンクール」の応募様式を11月下旬に一括して送付する。ブロック、都道府県組織は別紙1に定める期限内に作品の報告（応募）を行う。

(別紙 1)

ブロック・都道府県組織よりご報告（応募）いただく事項

報告内容	報告期限
メインロゴ応募作品	12月13日(月)
手づくり看板コンクール応募作品	1月7日(金)
手づくり看板写真データ	1月7日(金)
活動実績発表・青年の主張ブロック代表	1月26日(水)
活動実施発表関連データ	1月26日(水)
青年の主張関連データ	1月26日(水)
「君と」全国コンクールブロック代表	1月26日(水)
青年大会参加者	1月28日(金)
1分間スピーチ県参加者	2月4日(金)
青年大会参加費	2月4日(金)

締め切りを過ぎての提出・差し替え等については対応いたしません。
青年大会関係文書は11月下旬に一括して送付いたします。

参考

第57回JA全青協通常総会

第2号議案掲載資料

(議案採択済み)

- ・ 第57回全国大会開催要領
- ・ 青年の主張開催要領
- ・ 実績発表大会開催要領
- ・ 「君と」コンクール開催要領
- ・ 手づくり看板制作コンクール実施要領

第57回JA全国青年大会開催要領

1.趣 旨

活動体験交流と討議を通してJA青年組織の活動の強化・発展をめざすとともに、誇り高き青年農業者の情熱をもって全国のJA青年部盟友の叡智と行動力を結集し、日本農業の振興に向かって国民とともに歩んでゆく全国運動を構築する契機とする。

2.開催日(予定)

平成23年2月15日(火)～16日(水)

3.会 場

日比谷公会堂 〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1の3
TEL 03-3591-6388

4.主 催

全国農協青年組織協議会

5.参加対象

全国のJA青年部盟友および一般参加者(約1,200名)

6.大会経費

(1)都道府県の分担金として1組織30,000円

2日間の大会の様様を完全収録したDVD4セット(1セット2枚組)の代金を含む

(2)大会参加費として1人あたり4,000円を徴収し、事前に下記口座に振り込む。

農林中央金庫 本店 普通「4003760」

口座名義：全国農協青年組織協議会

(ゼンコクノウキョウセイネンソシキキョウギカイ)

7.その他

参加者の宿泊は各自手配する。

平成22年度JA青年の主張全国大会開催要領

1.趣 旨

地道な農業体験から出たJA青年の声を掘り起こし、今後の組織活動活性化に向けてのエネルギーとするため、農業・JA・青年部に関して将来に向けての希望、意見、提言等を発表する「JA青年の主張全国大会」を第57回JA全国青年大会とあわせて開催する。

2.日 時

平成23年2月15日(火)

3.会 場

東京：日比谷公会堂

4.主 催

全国農協青年組織協議会

5.発表内容・時間

農業経営・日本農業・JA・JA青年部活動に対する希望・意見・提言。
発表時間は一人10分以内とする。

6.出場資格

ブロックで推薦された代表者で1ブロック1名とする。

7.審 査

JA中央機関役職員・学識経験者・報道関係者および消費者代表が審査に当たる。

- (1)審査基準
- | | |
|-----------------------------|-----|
| ・発表内容 | 70点 |
| (明確な主張、発展性、JA・JA青年部とのかかわり等) | |
| ・発表態度 | 30点 |

(2)時間制限

一人10分以内の発表時間につき、発表時間より9分経過で赤ランプを、1回照らす。10分(10分00秒)を経過したところで、赤ランプを照らしっぱなしとする。

その後5秒毎(10分01秒～)に2点の減点を行い、11分で打ち切る。

なお、発表の際に時間の計測が可能となるもの(時計・ストップウォッチ・タイマー等)の使用は認めない。

(3)その他

個人の主張に関する審査であることを明確にするため、補助資材の使用ならびに発表者以外の登壇は一切認めない。

8.表 彰

- | | |
|------------|---------------------|
| ・JA全中会長賞 | 1名(最優秀賞として賞金5万円を進呈) |
| ・JA全青協会会長賞 | 5名 |
| ・日本農業新聞賞 | 発表者全員 |

9. ブロック代表の報告

発表者出身県事務局より、本協議会事務局宛に平成23年1月26日(水)までメールにて下記を提出する。締め切り後の内容変更は一切受け付けない。

ブロック代表に関する報告書(下記報告様式)

大会資料掲載原稿用データ

余白の設定(上22mm・左右下20mm)、文字数41、字送り11.5pt、行数32、行送り22pt、文字サイズ11.5pt、段数1、タイトル・氏名のスペースに7行使用。(Word2007を使用して原稿を作成した場合は、保存の際にファイルの種類をWord97-2003とすること)

顔写真データ(デジタルカメラ等で撮影:ファイル名を【氏名.jpg】とする)

.....
(報告様式)

平成23年1月26日(水)必着

J A 全青協事務局行

Email : seinen.s@zenchu-ja.or.jp

青年組織名 ()

記入者氏名 ()

「平成22年度J A 青年の主張全国大会」ブロック代表に関する報告書

発表者氏名(ふりがな)	
所属J A 青年部名 (ふりがな)	J A
題名	
担当者・連絡先	氏名 携帯

別途、大会資料掲載原稿用データ、顔写真データをe - メールにてご送付ください

平成22年度 JA 青年組織活動実績発表全国大会開催要領

1. 趣 旨

単位組織における創意ある活動を全国に普及し、活動の活発化と組織の拡充強化をはかるため、第57回JA全国青年大会とあわせて開催する。

2. 日 時

平成23年2月15日(火)

3. 会 場

東京：日比谷公会堂

4. 主 催

全国農協青年組織協議会

5. 発表内容・時間

JA青年組織の強化と活動活発化について他の模範となり今後の発展性が期待される事例。とくに単位組織全体としての組織的な取り組みを中心に、地域内の未組織青年の組織化と地域農業およびJA運動への具体的参画を重視する。

発表時間は1組織15分以内とする。

6. 出場資格

ブロック別活動実績発表大会において推薦された組織で1ブロック1組織とする。

7. 審 査

JA中央機関役員・学識経験者・報道関係者および消費者代表が審査に当たる。

- (1) 審査基準
- ・ 地域農業・JA活動との関連性 30点
 - ・ 組織活動の成果と発展性 50点
 - ・ 発表態度と技術 20点

- (2) 時間制限 一人15分以内の発表時間につき、発表時間より13分経過で赤ランプを1回照らし、14分経過で赤ランプを2回照らす。15分(15分00秒)を経過したところで赤ランプを照らさずとする。
その後5秒毎(15分01秒～)に2点の減点を行い、16分で打ち切る。
なお、発表時間は最初の音声が発生してから消えるまでとし、発表者は時間の計測が可能となるもの(時計・ストップウォッチ・タイマー等)の使用は認めない。

8. 表 彰

JA全国青年大会において表彰する。

- (1) 千石興太郎記念賞 1組織(最優秀賞として賞金5万円を進呈)
(2) JA全青協会長賞 5組織
(3) 地上賞 全発表組織

9. ブロック代表の報告

発表者出身県組織より、下記(1)～(4)について本協議会宛に平成23年1月26日(水)までCD R1枚に集約して下記を提出する。締め切り後の内容変更は一切受け付けない。

(1) ブロック代表に関する報告書(下記報告様式)

(2) 大会資料掲載原稿用データ

余白の設定(上22mm・左右下20mm)、文字数41、字送り11.5pt、行数32、行送り22pt、文字サイズ11.5pt、段数1、タイトル・氏名のスペースに7行使用。(Word2007を使用して原稿を作成した場合は、保存の際にファイルの種類をWord97-2003とすること)

写真データの取り込みの際は、圧縮せずに解像度を「350dpi」とする。

(3)発表用データ

以下の事項に留意すること。

発表において Power Point (パワーポイント) を使用する場合は、保存形式を Power Point2007 としたファイルを CD-R に記録し、本協議会に送付する (2007 以外は個別に相談要)。なお、特殊フォントの指定は不可。図として貼り付けること。データ内に動画・音声を含む場合は予め報告する。

開催前までに発表用データを確認したうえで、対応機種を本協議会にて準備する。準備機材以外の持ち込みは原則認めない。

実績発表大会は、基本的には発表の方法は自由であり、本協議会としては事前調査を前提に各ブロック代表の発表内容に適合できる機種・ソフトを準備するのが基本的な姿勢である。

(4)顔写真データ (デジタルカメラ等で撮影: ファイル名を【氏名.jpg】とする)

10. その他

BGM等の使用にあたっては、楽曲の著作権に十分留意すること。

(報告様式)

平成23年1月26日(水)必着

J A 全青協事務局行

E mail : seinen.s@zenchu-ja.or.jp

青年組織名 ()
記入者氏名 ()

「平成22年度J A 青年組織活動実績発表全国大会」ブロック代表に関する報告書

発表者氏名(ふりがな)	
所属J A 青年部名 (ふりがな)	J A
題名	
() スライド使用	スライド使用枚数 (枚)
() パソコン使用 使用する方に 印	<p><発表データの概要></p> <p>* PowerPoint2007 で提出する。PowerPoint97-2003 を用いて製作した場合は備考欄にその旨を記載する。</p> <p>(1) 動画の有無 有 (ファイル数は 　 つ) 無</p> <p>(2) 音声の有無 有 (ファイル数は 　 つ) 無</p> <p>(3) P C の設定内容 (特殊フォントの指定は不可、 図として貼り付けて対処してください。)</p> <p>備考</p>
担当者・連絡先	氏名 携帯

別途、大会資料掲載原稿用データ、発表用データ、顔写真データを、CD-R一枚に集約してご郵送ください

平成22年度JA青年の歌「君と」全国コンクール開催要領

1.趣旨

JA全青協創立40周年記念事業の一環として制作した「君と」について、全国の青年部盟友が自らの歌であることの認識を高めるとともに、消費者をはじめ地域住民に対して青年農業者のイメージソングとして定着するよう、幅広い年齢層に広く歌い継がれていくことを目指し、第57回JA全国青年大会とあわせて開催する。

2.日時

平成23年2月16日(水)(大会2日目)

3.会場

東京：日比谷公会堂

4.主催

全国農協青年組織協議会

5.出場資格

ブロックで推薦された代表者またはグループで、現役の青年部員とする。

6.運営方法

舞台進行・公平性を勘案し、CDの伴奏による1番または2番(歌詞の変更は認めない)とする。また、制限時間は2分30秒間とし、新たに音源を必要とする楽器演奏や集音マイク等の利用は不可とする。

なお、演奏時間は司会が出演者の紹介を終えた時点から起算する。

ただし、CDを必要としない楽器演奏(例：ギター弾き語り)や無伴奏(ア・カペラ)による歌唱方法は可とする。

なお、マイクは3本以内で使用可とする。

7.審査

JA中央機関役職員および学識経験者等が審査に当たる。

審査に当たっては歌唱力を重視し、本人または伴奏者等のパフォーマンスも勘案して総合的に評価する。

なお、のぼり旗等による応援は可とするが、評価の対象としない。

8.表彰

- ・最優秀賞 1名
- ・参加賞 5名

平成22年度手づくり看板制作運動ならびに全国コンクール実施要領

1. 趣 旨

農業、J A、J A 青年部活動に関して、農業関係者、地域住民（消費者を含む）が共感を持つ手づくりの看板を通じ、農業のある地域づくりの大切さを地域の住民に対してアピールする取り組みをおこなう。

そこで、優秀な手づくり看板の作成促進をはかるとともに全国コンクールを実施する。

2. 実施期間 通 年

3. 「平成22年度J A 青年組織手づくり看板全国コンクール」実施要領

(1) テーマ：「農業のある地域づくりの大切さに関する地域住民へのアピール」

(2) 対 象：J A 青年部盟友、個人、またはJ A 青年部グループの自主制作によるもの

(3) 応募作品：看板部門：コンパネ等を使用した手描きの作品
アート部門：立体絵・ロールを利用した作品（ 以外は全て）

(4) 応募方法：県組織でコンクールを実施した結果、優秀な作品について下記の(5)応募様式に基づき、看板部門、アート部門を合わせて3点以内をJ A 全青協に応募する。ただし、応募した作品は返却しない。

(5) 応募様式：看板・アートをデジタルカメラで2種類撮影し（ 作品全体、看板・アートの設置場所を背景とする全景（ロケーション、見え方、スケールの確認のため））、看板・アート説明書（80字以内）を添付して本協議会あてにEメールにて送付する。但し、写真一枚のデータ容量は300KB以上1メガ以下に調整すること。
なお、設置場所は各県における審査会の様子ではなく、実際に看板が常設されている状態を撮影すること。
（送付先）Email：seinen.s@zenchu-ja.or.jp

(6) 応募締切：平成23年1月7日（金）（ 締切日以降の提出は審査対象としない）

(7) 審査方法：手づくり看板全国コンクール審査委員会（消費者団体・J A 全国連等で構成）で審査する。但し、応募作品に関して基準に適合するか予めJ A 全青協理事会で選定を行う。

審査のポイント

インパクト、外部空間の中でどれだけ目を引くか、目立つか。

テーマに即した内容か。メッセージ力、訴求内容はどうか。

デザイン力、全体の構図のまとめ方、手づくり感はどうか。

留意事項：作品の内容はオリジナルのものとし、著作権の関係から既存のキャラクターを使用した作品（酷似したもの、連想させるものを含む）は審査対象としない。

(8) 表 彰：J A 全国青年大会にて最優秀1点、特別賞として全国消費者団体連絡会賞・J A 全農賞・J A 共済連賞・日本農業新聞賞・地上賞・農林中央金庫賞・(株)農協観光賞・J A 全中賞の各賞を表彰する(表彰状はJ A 全青協会長名)。全国消費者団体連絡会賞については、アート部門で優秀と認められた作品に対して授与するものとする。
なお、最優秀賞には賞金として5万円を進呈する。
ただし、表彰式の出席に関して本会から交通費等は支給しない。

平成22年度JA青年組織リーダー研修会について(ご案内)

平成22年10月
JA全青協

1. 日程

平成23年1月19日(水)~20日(木)(1泊2日)

2. 場所

東京・大手町JAビル(予定)

3. 参集範囲

JA青年組織(県域・単位組織)の役員・盟友や、JAにおける青年部代表理事・参与等、JA青年組織の幅広いリーダー層。

4. 開催趣旨

JA青年組織による農政運動と組織活性化に向けた取り組みとして、平成23年度より青年部ポリシーブックの作成を単組、都道府県、全国域の各段階で行うこととしているため、ポリシーブック作成をリードするために必要な研修を行う。

また、販売事業ケーススタディで、販売環境が著しく変化する中で効果的な販売戦略を構築するための考え方の基本を習得する。

5. 研修内容(予定)

- (1) 青年部ポリシーブック(仮称)作成による組織活性化と農政運動について
- (2) 販売事業ケーススタディ
- (3) 講演会
- (4) その他

6. 参加経費

参加者負担とする。

ただし、金額は開催場所・研修内容の詳細を検討のうえ別途提示する。